

作成日：2017年3月8日

改訂日：2022年7月8日

バージョン：1.3

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ランケア顆粒水和剤
会社名	株式会社エス・ディー・エス バイオテック
住所	東京都千代田区神田練堀町3番地
担当部門	営業部 緑化剤・特品グループ
電話番号	(03)6867-8320
FAX 番号	(03)6867-8329
奨励用途及び使用上の制限	農薬（緑地管理用除草剤、登録外の使用は不可）

2. 危険有害性の要約

GHS分類

(物理的及び化学的危険性)

自然発火性固体	区分外
水反応可燃性化学品	区分外

(健康に対する有害性)

急性毒性：経口	区分外
急性毒性：経皮	区分外
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
皮膚感作性	区分外

(環境に対する有害性)

水生環境有害性（長期間）	区分外
--------------	-----

上記で記載がない有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

表示対象外

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名	①1-[3-[(4,6-ジメキシピリジノン-2-イルカルバモイル)スルファモイル]-2-ピリジル]-2-フルオロプロピルメキシアセート (IUPAC)
一般名	①フルセトスルフロソ、flucetosulfuron (ISO)
化学特性（化学式等）	①C ₁₈ H ₂₂ FN ₅ O ₈ S（分子量487.46）
CAS番号	①412928-75-7
濃度（含有率）	①フルセトスルフロソ 50.0 % ②鋳物質微粉、界面活性剤等 50.0 %

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
--------	-----------------------------------

- | | |
|-----------|--|
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに医師に連絡すること。
多量の水で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹を生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぎ、無理に吐かせない。医師の診断、手当てを受けること。 |
5. 火災時の措置
- | | |
|-------------------|--|
| 消火剤 | 水、粉末消火剤、炭酸ガスなど |
| 火災時の措置に関する特定危険有害性 | 燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、フッ素化合物等が含まれる。 |
| 消火を行う者の保護 | 適切な保護具を着用し、風上から消火活動をする。 |
| 消火時の注意 | 濃厚な廃液が河川などに流入しないように充分注意する。 |
6. 漏出時の措置
- | | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置 | 漏出時の処理作業には適切な保護具を着用する。 |
| 環境に対する注意事項 | 漏出物が河川や下水などに流入しないようにする。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。 |
7. 取扱い及び保管上の注意
- | | |
|-----------|--|
| 取扱い | |
| 安全取扱い注意事項 | 皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らないようにする。 |
| 衛生対策 | 吸い込んだり皮膚や眼に触れないよう、長袖の作業衣、保護手袋、保護マスク、保護眼鏡を着用して、できるだけ風上から作業する。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 適当な換気のある乾燥した冷暗所に密封して保管する。 |
| 安全な容器包装材料 | 詳細は製品のラベルに従うこと。 |
8. ばく露防止措置
- | | |
|------------|----------------------|
| 設備対策 | 換気を適正に行う。 |
| 許容濃度 | 日本産業衛生学会で未設定 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 防じんマスク又は簡易防じんマスク |
| 手の保護具 | ゴム手袋 |
| 眼の保護具 | 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な作業衣、安全靴 |
9. 物理的及び化学的性質
- | | |
|----|----------|
| 外観 | 類白色水和性細粒 |
|----|----------|

臭い	なし
pH	7.42 (20.0 g/80 mL水溶液)
引火点	データなし
比重 (見掛け)	0.61
溶解度	データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	通常の保管条件、取扱いでは安定。
危険有害な分解生成物	燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、フッ素化合物等が含まれる。

11. 有害性情報

急性毒性	経口 LD50	>5,000 mg/kg (雌ラット) (区分外)
	経皮 LD50	>5,000 mg/kg (雄雌ラット) (区分外)
	吸入 LC50	データなし(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		刺激性あり (ウサギ) (GHS分類基準以下であり区分外)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		刺激性なし (ウサギ) (区分外)
呼吸器感作性		データなし(分類できない)
皮膚感作性		陰性 (モルモット) (区分外)
生殖細胞変異原性		データ不足(分類できない)
発がん性		データ不足(分類できない)
生殖毒性		データ不足(分類できない)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)		データ不足(分類できない)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)		データ不足(分類できない)
吸引性呼吸器有害性		データなし(分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性	コイ	96時間 LC50	>199 mg/L
その他	オオミジンコ	48時間 EC50	>199 mg/L
	藻類	72時間 ErC50	>49.7 mg/L
		NOECr	2.13 mg/L

上記の結果から、水生環境有害性(急性)は藻類の上限値が不明であり分類できない、水生環境有害性(長期間)は区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物の廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の規則を遵守し、適切に行うこと。
空容器、空袋、汚染容器等の処理は、内容物を完全に除去し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(施行令第6条)等の関連法規ならびに地方自治体の規則を遵守し、適切に行うこと。
これらの処理を委託する場合は、所轄の地方自治体の許可を得た一般(或いは、特別管理)産業廃棄物業者と契約を結んだ上、処理を委託すること。

14. 輸送上の注意

国連規制 国連の基準で評価して危険物に該当しない。
輸送の特定の安全対策及び条件 容器が破損しないように、水ぬれや乱暴な取扱いを避ける。

15. 適用法令

農薬取締法 農薬登録番号 第23850号

16. その他

・参考文献

FlucetosulfuronのSDS (LG Life Sciences社)

・免責事項

このSDSは、JIS Z 7253 (2012) に準拠する。この安全データシートに記載されている情報は、その発行日時点において、我々が知る限りにおいて、及び信じるところにより正確であることを証明する。ここに記載する情報は、安全な取扱い、使用、処理、保管、運搬、廃棄、及び放出を安全に実施することを目的としてのみ提供されており、保証又は品質仕様を表しているものではない。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、何らかのプロセスで指定外に他の物質と共に使用した場合、その妥当性は排除される。